

特別寄稿

～ ドライバー・コンテストに参加して ～

株式会社アイザック・トランスポート 本社勤務

田邊 誠 さん



富山県トラックドライバー・コンテスト事務局は、11トンの部で2年連続に県コンテストで優勝、2年連続で全国コンテストに出場されました

株式会社アイザック・トランスポート 本社勤務 田邊 誠さんに「ドライバー・コンテストに参加して」と題して御自身がコンテストを通じて感じた事を今回特別に文章にして頂きました。

その内容について会員の皆様に是非ご紹介したいと思います。
それでは田邊さんお願いします。

株式会社アイザック・トランスポート本社勤務の田邊誠です。

この都度、富山県トラックドライバー・コンテスト事務局から「コンテストに参加して」と題して富山県トラック協会ホームページへの寄稿を依頼されましたので自分の思いとして書かせて頂きました。

まず、自己紹介しようと思います。

ドライバー歴は26年になり、社会人としてこの業種しか経験はありません。

現在はタンクローリーに乗務し、北は岩手県、南は岡山県あたりまで乗務しています。

振り返りますと私は子供の頃から、電車やトラック、バスといった働く車が大好きでした。

子供の車好きには、スポーツカーのような格好良い車が好みの子供と、重機やクレーン車、バス、トラックが好みの子供に分かれます。

私の場合は、後者の方で、子供の頃からトラックに乗りたい、トラックに乗って仕事をしたいと考えていました。

そう考えると車の運転も好きなので、今の職業は天職といったところでしょうか。

全国各地で春には桜、秋は紅葉、夜は満点の星空を見たりして季節の変化を感じながら、ご当地でしか味わえないグルメを堪能したりと、ドライバーライフを楽しんでおります。

また、色んな場所で久しぶりに再会したお客様に「久しぶりやねえ、元気やったけ？」といった声を頂戴すると「ああ、たまにしか会えないのに自分を覚えていてくれる。嬉しい。この仕事、やってて良かった。」と人の暖かみを感じています。

社長からは常々、「プロなんだからお客様を魅了してこい！ 唸らせろ！」と良く言われます。

ドライバーとしては厳しい言葉と思いますが、それが大事な事であることは十分理解していますし、そうあるべきと考えています。



弊社の車輛には、社名のロゴが大きく入っています。走る広告塔ですよ。

ということは当然、周囲から見られていますし、運転マナーにも大変気を使っています。

ところで皆さんに質問です。

進路変更の合図を出しました。そして進路変更が終了しました。

合図の終わりは、いつなのか御存知でしょうか。

色々と検索するのに便利な世の中、自分も調べてみましたが全く分かりませんでした。

進路変更とは、進路を変更する3秒前に合図をする。方向指示器を2～3回点滅といったところでしょうか。

道路交通法では「進路変更は終了したら、速やかに合図をやめる」となっています。

でも、いつの時点が進路変更の終了なのでしょう。私は大変疑問に思いました。

正解は最後にとっておきましょう。これを御存知の方がいらっしゃいましたら大尊敬しちゃいます。

偉そうに言っておりますが、私もこの正解を知ったのは今年の10月中旬でした。

全国トラックドライバー・コンテストにおける運転競技の点数を高めるため、運転研修センターに問い合わせました。コンテストに出場したから、こういった疑問を持つようになったんですよ。



私はドライバー・コンテストについて知ったのが昨年の4月頃で正直、それまでは、こういったコンテストがあるのを知りませんでした。

上司から「コンテストに是非出場して欲しい」と言われ、右も左も分からない状態でしたが、出場してみました。

2回目の出場は「全国コンテストにもう一度行きたい」という思いが強く、自ら志願致しました。

その結果、昨年、今年と2年連続して富山県コンテストを勝ち進み、全国コンテストへと出場することになりましたが、全国コンテストは、確かにレベルが高い！違いすぎますよ。

ただ、ハンドル捌きに自身のある方はもちろん、普段の仕事のクオリティを高めたい方、特に乗務して間がない方、若い方は、まず、富山県コンテストに是非参加されてはいかかでしょうか！

事前講習で教わりながら出場することで運転の精度が格段に向上します。

自分自身、今まで狭くて億劫だったお客様構内が嫌ではなくなり、タイヤ、特に軸の位置が正確に分かるようになりました。

つまり、コンテストに出場することで自分の運転能力を高めたということになりますね。

後は、豪華な昼食弁当、全国コンテストよりも素晴らしい参加賞が頂けます。

これも大きな魅力ですね。



また、今まで会ったことのない他社のドライバーさんとも仲良くなれて色々な会話ができました。

こうした経験が出来るのもコンテストならではの魅力ですね。

1位入賞すれば、全国コンテストですよ。

他県のドライバーさんとも仲良くなって、SNSを交換したりと人脈も広がりました。

全国を乗務する中、ドライバーにとって色々な情報を広範囲で共有することができるのは大変な魅力ですし、ご当地情報も通になれますよ。

ただ、全国コンテストはメンタルが相当強くないとなかなか辛いかもしれません。大勢の誰も知らない方々の中で、缶詰状態で待機ですし、それでも入賞される選手は、日頃からしっかりと交通法規に向き合い、安全運転に努められて訓練もされたのでしょ

うね。

今年の内閣総理大臣賞を受賞された方は、4年越しに勉強や練習をされたとかで。自分は、その足元にも及びません。

そのわりには自分は全国コンテスト、あまり緊張しませんでしたね。

富山大会の方がよっぽど緊張しましたよ。



1回目は、点検競技でのどが渇き、声が出なくなりましたし、2回目は、1回目よりもっと緊張しましたね。

会社の期待、追われる立場、もう一度全国コンテストにも行きたいし、これで県コンテストそのものも2回目で最後。

2回目は前年度優勝者としてのプレッシャーというか背負うものがあまりにも大きかったと思います。

運転競技では、ついつい、いつもの癖が出てしまうので、安全確認を意識した運転に心掛けていました。

常に安全確認の事を考えながら運転していると、すごく疲れます。でもそれが大事なんですよね。

2回目の県コンテスト優勝した時は、さすがに終わってからホッとしましたね。(笑)

でも辛い時に支えてくれたのが家族であり、上司であり同僚の存在です。今は感謝の気持ちしかありませんね。

全国コンテスト会場まで応援に来てくれたり、「頑張れ」と声援をくれたり、本当に自分をサポートして頂きました。

結果が残ればもっと良かったのですが……

全国コンテストから帰宅して、乗用車に乗った時、シートの背もたれが後部に傾いていて、大きさに言うと空を見て運転するよ

うな格好になり、思わず吹き出してしまいました。

シートの角度が垂直よりも前ぐらい、でもそれが自分自身の運転競技が始まるスイッチでした。

ハンドルを両手で持ち、安全確認をしてからスタートする、今でもあの緊張感は忘れません。

でも、コンテストに参加してみて得たものは非常に多く、自分の財産となっていますし、安全運転に対する考え方も変わりました。

実際にコンテストに参加してみないと良さは分からないかもしれないし、参加するまで不安もあると思いますが、コンテストに出場

すると安全意識や運転技術は確実に向上します。

そういう意味からも一人でも多くコンテストに出場して欲しいですね。

それでは最後に進路変更の解答です。

正解は「車線に対して車両が平行になったら合図を消して終了」になります。車両の側端が車線に入ったら終了ではなく、車線に対して車両が平行になった時点で終了です。驚きました。何かの参考にしていただければ幸いです。

つたない文章でしたが最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

そして最後に富山県トラックドライバー・コンテスト事務局の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

田 邊 誠



編集後記

業務が御多忙な中、田邊さんには事務局からの寄稿依頼にも快く応じて下さり、心より御礼を申し上げます。

全国コンテストに応援のため会場入りされました北山社長様、江野本次長様方々のコンテストへの熱量に圧倒されつつ、果敢に競技にチャレンジされていた田邊さんを直近で見ている、まさにプロドライバー、職人としてのプライドを感じました。

また、田邊さんは本年の運行管理者試験にも合格されるなど努力を惜しまず才能を開花されており、今後益々の御活躍を祈念しております。

同じように2年連続して県コンテストに優勝し、2年連続全国コンテストに田邊さんと共に出場したトレーラ部門代表の日産物流株式会社富山支店の村瀬良和さんも努力家であり、素晴らしい挑戦者でした。

御両人のコンテストに挑戦した2年間の姿は、目に焼き付けてありますがエンドロールはありません。

記憶に終わりはありませんから。

今回でレジェンド御二人が殿堂入りされました。次回、入賞が宿命となっている選手は誰でしょうか？

宿命を燃やして暴れる選手が出て来るでしょうか？

答えは、6月21日(土) 運転免許センターで発表します。(事務局)

